

内陸エリア

白石市・角田市・登米市・栗原市・大崎市
蔵王町・七ヶ宿町・大河原町・村田町
柴田町・川崎町・丸森町・大和町・大郷町
富谷町・大衡村・色麻町・加美町・涌谷町
美里町



地域の復興状況（内陸エリア）

県内陸部の20市町村では、津波の被害こそなかったものの、栗原市で最大震度7を記録し、死者・行方不明者の人的被害のほか、全半壊の住家が約10,000棟に及ぶ大きな被害を受けました。

被害の少なかった自治体においては、おおよその復旧の見通しが立ち、宮城の復興に必要な役割を模索するところもある一方で、多くの市町村においては、地域の実情に合わせた復興への取り組みを進めているところです。また、東日本大震災でこれまで以上に自治体間の絆が深まり、県外の自治体と防災協定を結ぶなどして、次の災害への備えを強化し支え合う動きもあります。

一方で、放射線量の測定や風評被害の払しょくなど、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故への対応に追われる市町村もあり、今後の課題となっています。

内陸エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	27人	10,427人
行方不明者	2人	1,302人
全壊	1,346棟	85,259棟
半壊	8,503棟	152,875棟

〔平成25年2月28日現在〕

応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成25年3月
プレハブ住宅	282人	212人
民間賃貸借上住宅	5,148人	5,764人
計	5,430人	5,976人

〔平成25年3月1日現在〕

この記事は宮城県復興応援ブログ「ココロプレス」から抜粋しました。内容や表現は取材当時のものです。詳しくは <http://kokoropress.blogspot.com/>

2012年9月16日 日曜日

人は宝なり



（大崎市古川）
吉野作造記念館の「宝」＝「人」プロジェクト。東北人がもともと持っているポテンシャルを引き出すため、議論力、思考力、表現力、理解力などの基本能力を養成し、未来と復興を担う人材を育てています。

2012年9月30日 日曜日

復活！白石城



（白石市益岡町）
白石市にとって大事な観光資源である白石城。震災で大きなヒビが入ったり、しっくいのはがれたり大変なダメージを受けましたが、震災から1年半を経て、9月30日復活しました！

2012年10月26日 金曜日

被災した親子や子どもが休める場所に



被災した子どもたちを支援するための復興共生住宅「手のひらに太陽の家」。安心安全に暮らすことができる場所として地元材を使い、自然エネルギーを取り入れた新しい社会の復興モデルを目指して、2012年7月に完成しました。

所長の細木典子さん

2013年2月13日 水曜日

ハンバーグに自信あり 被災の「大地フーズ」が新拠点

（美里町、石巻市）



津波で製造ラインのすべてが流され、従業員に犠牲者も出た大地フーズ。しかし、「震災の当日に、事業の再開を決意した」と語る社長の陣頭指揮と従業員の懸命の努力で困難を次々に克服し、内陸部に拠点を移してついに操業を再開しました。

社長の須永光春さん



2012年9月16日 日曜日

宮城の青空に舞った絆つなぐ凧

（大衡村）



「みやぎ福幸凧あげ大会 in おおひら」。会場では被災地への支援活動続ける愛知県田原凧保存会の「絆アチ凧」がきれいな弧を描きました。



2012年7月18日 水曜日

やさお母さんの山菜料理のおもてなし

（栗原市栗駒）

4年前の岩手・宮城内陸地震で大きな被害を受けた栗原市荒砥沢地区に復興の息吹を探しにきました。風評被害にも負けずに営業を続けている「さくらの湯」は、とてもやわらかな温泉でした。



2012年10月31日 水曜日

「蔵の町並み」復興への第一歩

（村田町）



内陸部も沿岸部と同様、先の震災で被災しています。村田町の場合は震災による死亡者は皆無でしたが、建物などに大きな被害がもたらされました。「蔵の町」として名高い同町にとって、まさに至宝とも言うべき「蔵」もその例外ではありません。

2012年3月17日 土曜日
瓦礫の中から甦りし不屈の政宗魂
牟宇姫に宛てた伊達政宗直筆の手紙（角田市）



東日本大震災から2カ月たった5月、石巻市湊町のがれきの下から伊達政宗が嫁ぎ先の

姫にあてた直筆の手紙が発見されました。姫が嫁いだ角田市で開かれた「かくだ牟宇姫ひなまつり」でこの手紙が披露され、来場者は震災と政宗をつなぐ縁の不思議にしばし感じ入りました。



牟宇姫あての手紙

手紙の保有者の内海伸宏さん



2012年7月12日 木曜日

笑顔で立ち向かう

（丸森町）



「いきいき交流センター大内」スタッフのみなさん

福島県との県境の町、丸森町。ゆったりとした時間の流れる農業の里。風評被害の影響を受けながらも、町の皆さんはこの現実に真っ向から挑んでいるように感じられました。

2012年9月1日 土曜日

地域の防災・減災のために

（富谷町ひより台）

防災・減災のために立ち上がった、地形や地質の専門家集団NPO法人「防災・減災サポートセンター」。行政や各方面に提言を行い、地域住民とのワークショップで「地域防災マップ」作りを進めています。



理事長の今野隆彦さん

2012年9月9日 日曜日

政宗公まつり

（大崎市岩出山）



勇壮な武者行列を再現

9月9日、伊達政宗が青年時代を過ごした大崎市岩出山で「第49回政宗公まつり」が、開かれました。目玉の甲冑武者隊には全国から参加者が集合、みやぎを励ましてくれました。「いざ！復興へ！参るぞ！」政宗公の雄叫びが聞こえてきたようでした！



関東から参加の蓮川さん

2012年11月2日 金曜日

「女性と共に」

（登米市迫町）



震災後、津波で大きな被害を受けた南三陸町から、隣接する内陸部の登米市に多くの住民が転入して来ました。「とめ女性支援センター」は、転入してきた女性や、もともと登米市で暮らす女性たちのために、子育ての悩みなどを話し合う場所や、雇用の機会を作ろうと立ち上がりました。



集える場所と雇用の創出を目指して「カフェつむぎ」の運営もしています



2012年11月19日 月曜日

安全安心な野菜を食卓へ

（栗原市一迫）



栗原市一迫で、野菜の水耕栽培と減農薬・減化学肥料で育てられるブランド米「伊達の米」の生産に取り組んでいる有限会社 耕佑。2つの大地震で施設が受けた被害を乗り越えて生産を続けた野菜は、市

場からも高い評価を受けています。



二度の地震で施設全体が大きな被害を受けました。

代表取締役の山村喜久夫さん



2013年2月14日 木曜日

復興を忘れないお酒

（加美町、仙台市）

「大丈夫なのかと思いました。塩水をかぶった田んぼのコメで造って、おいしい酒ができるのか」と仙台市若林区で農業を営む大友一吉さん。被災した地域の復興を願う県内の酒造会社から「津波で壊滅した仙台市沿岸部でコメが作られているが、それを酒米として利用したい」と提供を打診された時に、こう感じました。しかし、大友さんが丹精込めて育てたコメは、極上の純米酒に生まれ変わりました。



2013年2月10日 日曜日

2つの町をつなぐ「絆」

（川崎町、石巻市）

震災直後に石巻市で被災した方々の2次避難場所となった温泉宿が多くある川崎町。住民には石巻との固いつながりと「少しでも被災地の支援につなげたい」という思いがあり、冬のイベント「青根温泉雪あかり」には当時避難していた方々が招かれました。「海の町、石巻」と、「山に抱かれた町、川崎」の間で築かれた絆は、今も強く結ばれています。

